

国道151号線改良工事に伴う
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

新野大村遺跡

1992・3

長野県飯田建設事務所
長野県下伊那郡阿南町教育委員会

国道151号線改良工事に伴う
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

新野大村遺跡

1992・3

長野県飯田建設事務所
長野県下伊那郡阿南町教育委員会

序 文

阿南町新野大村地籍で、国道151号線改良工事に伴う広幅工事が計画されました。大村地籍では五郎新田地籍で古墳時代敷石住居址が検出されたり、殿林地籍で弥生時代後期・平安時代の住居址が発見されたり、縄文時代の早・前期の遺物出土が伝えられるところでありますので、県教育委員会文化課のご指導により発掘調査が計画されました。試掘調査は平成元年5月に行い、縄文時代前期・中期の遺物出土がありましたので、県教育委員会文化課との保護協議の結果、一部の地域の検出調査を実施することになりました。

阿南町教育委員会には調査組織がありませんので、その対応に苦慮しましたが、幸い、現地指導を今村善興先生にお願いし、現地調査担当に松村全二先生をお願いすることができまして、平成3年8月に発掘調査を終了することができました。

発掘調査の結果は、報文にありますように古い時代の造構等の発見はありませんでしたが、新野地方を特長づける縄文時代前期の遺物出土がありましたり、山麓に広がる扇状地特有の堆積土層の複雑さを検証することができました。

報告書刊行に当たりまして、試掘調査・検出調査にご苦労いただいた今村団長・松村調査主任・調査員・協力作業員に深く感謝申し上げるとともに、細かいご指導をいただいた県教委文化課・飯田建設事務所・阿南町建設課、何かとご協力いただいた地権者や近隣の方々に厚く御礼申しあげます。

平成4年3月

阿南町教育委員会教育長 小林陽美

例　　言

1. 本報告書は、国道151号線改良工事に伴う緊急発掘調査報告書である。
2. 試掘調査は今村が担当し、検出調査は今村が現地調査指示をして、調査主任松村が担当している。
3. 調査報告は、試掘調査・検出調査を含めて概略の報告をしている。
4. 報告書刊行に当たって、現場の測量等は林・松村・今村が担当している。整図・拓本等は、松村・今村が当たっている。
5. 遺構等の発見が少なかったので、試掘調査・検出調査を合わせて今村が編集している。
6. 発掘調査にかかる記録一切は阿南町教育委員会が保管している。

新野大村遺跡 目 次

序 文 阿南町教育委員会教育長
例 言

I 調査の経過	1
1. 大村遺跡の保護協議と試掘調査	1
2. 検出調査の保護協議と発掘調査	1
3. 調査団組織	1
(1) 調査団	1
(2) 調査事務局	1
II 大村遺跡周辺の環境	2
1. 周辺の環境	2
2. 歴史的な環境	3
新野地区の遺跡一覧表	5
III 調査の結果	6
1. 調査地区と出土遺物	6

挿 図

第1図 新野地籍の遺跡図	4
第2図 調査地域の配置	8
第3図 調査グリット土層図	9
第4図 大村遺跡出土遺物	10

写 真 図 版

写図1 大村遺跡の遠望	11
写図2 調査前の大村遺跡	12
写図3 C地区のグリット掘り	13
写図4 A・E地区のグリット掘り	14
写図5 A地区の検出作業	15
写図6 C地区の検出作業	16
写図7 A地区Fグリットの土層	17

写図8	A地区グリット土器出土状況	18
写図9	C地区Oグリットの土層	19
写図10	A地区土壤1・2	20

I 調査の経過

1. 大村遺跡の保護協議と試掘調査

国道 151号線新野大村地籍の広幅改良工事が計画されたので、昭和63年10月県教委文化課を交えて現地協議が行われた。その結果、遺跡範囲が不詳のために保護措置に必要な資料を得るために、試掘調査を実施することになった。

試掘調査は用地交渉の成立を待って、平成元年5月9日から29日にかけて実施している。結果は、縄文時代前期土器出土地、縄文時代中期土器出土堅穴址のほか中近世の土壙・柱穴等が発見されている。遺物の出土量は多くないが、前期的な土器の出土地があるために一部について、検証の発掘調査を依頼した。

2. 検出調査の保護協議と発掘調査

試掘調査の結果に基づき、平成2年1月県教委文化課・建設事務所・阿南町教育委員会による保護協議が行われ、平成3年度に発掘調査が決まった。

試掘調査担当の今村は高森町の発掘調査が連続しているために、調査主任に松村全二を迎えて、平成3年8月18日から8月30日にかけて発掘調査をしている。試掘調査の縄文時代中期土器出土の堅穴状造構周辺と縄文時代前期土器出土地域を中心に調査をしたが、遺物出土はあったものの遺構検出までに至っていない。

3. 調査団組織

(1) 調査団

調査 団長 今村 善興（日本考古学協会員）

調査 主任 松村 全二

調査 員 林 貢 福田 千八 小林 薫

協力作業員 勝野 吉治 金田 虎雄 池田 貞雄 宮野 房満 後藤 三堆
奥田 麻朋

(2) 調査事務局

阿南町教育委員会教育長 小林 陽美

同 社会教育係長 生嶋 義信（平成元年度）

同 同 金田 修（平成3年度）

II 大村遺跡周辺の環境

1. 周辺の環境

阿南町は下伊那郡の南部に位置し、東側は天龍川を境にして泰阜村に接し、西側は下伊那郡南部の下条山脈その他の山地帯を境にして、北は下条村、西は浪合村・平谷村・売木村、南は天竜村に接する広大な地域に及んでいる。

この中で新野地域は、最も南に位置する南部高原地帯に含まれている。この阿南町新野は、合併以前は旦開村と呼ばれていたが、合併を機に阿南町新野と呼ばれるようになった。南側の新野峠を越すと愛知県豊根村であり、西側の売木峠を越えれば売木村、東南から流れ下る早木戸川沿いを下ると天竜村向方、北側を下ると阿南町蒂川・大下条巾川に続き、「新野よいとこ千石平」と盆歌にあるように、南北3km・東西1kmの細長い盆地地形をなし、その周囲を1000~1150m前後の山陵で取り囲まれた高原盆地である。

阿南町史によると、新野地域は早木戸川の流域に属する点では、他地域の和合・大下条とは区別できる。早木戸川は新野盆地の西・北の山陵を源流として東流し、天竜村向方・福島地域を通って天龍川へ流れ落ちている。この早木戸川の侵食は、まだ新野地域まで及んでいないために、扇状地性の砂礫層が厚く堆積して山間盆地が形成され、底の開けた盆地底と周辺を取り巻く低い山地帯からなり、際立った高原地形が形成されている。

盆地の形は北東から南東方向に伸びており、同方向の断層に大きく支配されているものと推定される。盆地のへりや盆地底には周辺の山地から運搬された扇状地性の砂礫層が多く見られる。縁辺部の礫層ほど古く、中央部ほど後から堆積した砂礫層である。

周辺を取り囲む山地の比高は余り高くなく、緩やかな山容を呈しており、山地と山地の間に小起伏のある地形が残存して、高原地形が形成されている。この山地を形成する基盤岩類は主として花崗岩・領家変成岩である。新野峠一帯には、これら基盤岩類の上を第三紀の地層がおおっている。この第三紀層は、富草層群と同時代のものであるが、この地域より南部に広く分布する設楽層群の一部に当たる。

今回調査した大村遺跡のある一帯は、新野盆地の北東部に当たり、盆地全体ではやや小高いところに位置している。東側の山陵から土砂が運搬されて堆積・形成された大村扇状地の西側先端部に近い位置にある。調査した範囲はごく狭いところであるが、表面は砂質土が多く、黒色砂質土・茶褐色砂質土・黄褐色砂質土・灰白色砂質土等の堆積が複雑な層序をなしていることが観察される。これらの砂礫土の中には、礫層も多く見られ、大きな転石の存在も各所に見られている。ところによっては、黒色砂質土が1m以上も堆積しているところもあり、50cmほどで黄褐色土や礫群が堆積するところもある。また、黄褐色砂礫土の下に黒色土が厚く堆積して、その下層から縄文時代中期の甕形土器が発見された例（A地区F）もあって、複雑な砂

礫層の堆積の多いことが観察される。砂礫層の堆積が厚いためか地下水の浅いところで、1m内外で浸水するところがあるって調査には苦労している。

2. 歴史的な環境

阿南町新野というと、古くから埋蔵文化財包蔵地の多いところとされている。大正時代に市村先生らの調査による「下伊那の先史及び原始時代」にはスイカソ・川尻・六升畠・遠見原・芳ガ洞等の遺跡が記録されている。

昭和22年から篠原健吉校長の要請により、茅野市の宮坂英式氏による新野地方の遺物収集調査・発掘調査が行われ、大村遺跡（千治林）・網張遺跡の発掘調査が行われている。遺物収集調査により集められた多くの遺物は、新野小学校に保管されている。このおりの記録と遺物によって遺跡一覧表が作成され、その後の何回かに亘る分布調査によって第1表のような遺跡地名表が作成されている。これを見ても分るように37遺跡と1基の古墳・5か所の城館跡が登録されている。この狭い地域にこれだけの遺跡が登録されるところは少なく、いかにこの地域の立地条件が良かったかを物語っている。

出土遺物や時期的に特長のある遺跡をあげると、縄文時代早期・前期の遺跡が多い。早期では和合地籍の境沢に続く境沢遺跡のほか五郎新田・赤坂・大村井上・音十づくりの5遺跡で、縄文時代前期になると発掘調査により住居址は発見された網張遺跡のほか、横林・アリ塚・見達平・六升畠・若宮・十九庵・音十づくり・境沢遺跡と10遺跡が登録されている。縄文時代中期は20遺跡以上ある。縄文時代後期・晩期の遺跡も10遺跡が登録されているが、近年の詳細分布調査により、東海系の条痕文土器が多く出土していることが確認され、三河系の稻作文化の前進となる重要な拠点の一画として注目されている。

弥生時代についても縄文時代晚期と同様に、三河系の水神平・貝田町系の前期・中期の遺跡が多く、今後の調査に期待されることが多い。古墳時代・平安時代の遺跡も、阿南地方山間部としては大下条と共に多い地域で、これもまた今後の調査に大きな期待がもたれる時代で、やがてこの地域に花開く中世文化の、漸進的な基盤として注目される時代でもある。

中世の新野地方の郷土史年表によると「文永2年（1265）伊豆の人、工藤小次郎本村に土着し、大村を拓く」とあるが、その真偽のほどは分りかねる。熊谷家伝記にも新野のかかわる伝承は多い。熊谷家伝記によると伊勢平氏の流れをくむ閑氏・市村説によると伊賀良庄地頭小笠原氏の被官の二説のある「閑氏」が新野の地に勢力を張り、「日差館」に居城し、後の下条氏と抗争をして大下条早稻田に勢力を張った歴史が残されている。何れにしても、新野地方を拠点とした歴史・伝承が多く残されているから、中世の有力な遺跡が数多くあるものと推定される。



第1図 新野地籍の遺跡図（一部和合地籍を含む）

第1表 新野地区の遺跡一覧表

遺 跡

町 番 号	縣番 登 録号	遺跡名	所在 地	先 土 器	縄文 時 代				弥生 時 代				古墳 時 代	平安 時 代	中 近 世	備 考	
					草 創	早 前	中	後	孰	前	中	後					
55	2962	五郎新田	新野 大村		○		○						○				敷石遺構
56	2963	千治林	" "			○							○ ○ ○ ○ ○ ○				平安堅穴住居
57	2957	庄司林	" "										○				
58	2956	模林	" "			○							○ ○				
59	2958	永正庵	" "				礎										
60	2960	大入前	" "				○							○			
61	2964	堅木平	" "											○ ○			
62	2965	村上	" "				○										
63	2961	アリ塚	" "			○ ○		○		○ ○			○				
64	2959	大村見通平	" "			○ ○		○						○			
65	2966	赤坂	川尻	○													
66	2968	高城	" "										○		○		
67	2967	劇張	" "			○ ○ ○								○ ○			前期堅穴住居 (昭25)
68	2969	六升畠	" "			○ ○ ○							○ ○ ○ ○				
69	2970	若宮	" "			○ ○		○									石棒
107		矢野	" "				○ ○ ○										石棒
70	2972	遠道原	" "				○ ○										
71	2975	芳ヶ洞	柄ヶ洞				○ ○ ○										石棒
72	2976	コロバシ平	" "				礎										
108	2974	牧原	" "				礎										
109	2973	川田平	" "				礎										
110		大村井上	大村	○				○		○							
111		大村さいの持	大村				礎										
74		松ヶ洞栗山	荒木松ヶ洞										○				
73	7983	十九庵	寺山	○	○		○		○	○ ○ ○ ○ ○ ○							(旧前擇)
75	2982	寺山	" "														
76	2981	若林	荒木					○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○							
112		荒木大岡土	" "				○	○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○							
113		音十づくり	松ヶ洞	○ ○ ○ ○ ○ ○													
114		黒山坂	" "					○ ○ ○ ○ ○ ○									
115		滝ノ沢	" "	○ ○ ○ ○ ○ ○													
77	2980	立小路	本町				礎										
78	2979	新田	砂田				礎										
79	2977	金原	" "				○										
81	2978	蕨平	" "				○ ○ ○										
116		平沢	平沢				○										
117		古市場	古市場				礎						○				(古)円、楕(良05、 寺山06、高知07)遺構
80	2987	新熊山	新野・砂田200m處														
118		日差城	新野														

III. 調査の結果

1. 調査地区と出土遺物

調査範囲は、現国道の両側に広幅部分があるが、用地幅の4~6mほどのところを選び、表面採集によって遺物が採集されたところ・地形的にみて可能性の高いところ・主として畑になっているところを調査地とした。北側のレストラン「茶臼の里」の前辺り、STNO13~NO15あたりをA・B地区、STNO16から50mをC地区とし、それから南へ50m単位にD・E地区と呼び、8mに1個の割りにグリット掘りをしている。

試掘調査は、第2図調査地域配置図のように、A地区ではC・F・J・N・Qの5か所、C地区ではD・G・K・O・S・WとD地区Bの7か所、E地区はA・C・F・I・O・Rの6か所である。当初はA地区は調査範囲に入っていたが、調査前に工事が行われた北側の道路線の擁壁上の堆土中に縄文時代中期の土器片が発見されたので、急遽調査を行っている。C・Fとともに黒色土・褐色砂質土の堆積が厚く、70cmほど下に黄褐色の砂礫層がある。この砂礫層の下に黒色粘質土があって、表土下140cmで縄文時代中期の土器片が出土している。南側のJ・Nでは黒色土中に近世と思われる堅穴状遺構・土壤が検出されている。上層で縄文時代中期の土器片が出土したほかは、遺物の発見はなかった。検出調査の結果は黒色土層の堆積は厚く、下層には黒色土を含む砂礫層があって、C・Fとは土層の堆積が大きく変わっている。遺物の確認は出来なかった。

C地区のD・Gは一段高い畑で黒色土の堆積が60cmほどあり、その下層は褐色砂質土に変わり疊群が多くなり、表土下110cmで黄褐色砂礫層に変わっている。褐色砂質土から縄文時代中期土器片・石器が出土している。Jから南は一段低い畑で、土層堆積は南・西へ大きく傾斜していることが観察される。Kは表土下40cmで黄褐色・茶褐色土の混じる疊層があり、その疊上から中世陶器・弥生時代後期の土器片が出土している。疊を取り除くと黒色砂質土茶褐色疊混じりの層があり、下層に黄褐色が堆積されるが遺物は確認されていない。

Nグリットになると急激に様相が変わる。第3図調査グリット土層図で見られるように、4は南側・5は東側の土層図で、黒色砂質土・黄褐色砂質土・茶褐色砂質土の複雑な堆積土が観察され、表土下140cmまで続くことは分ったが、そこから下層にも砂質土の堆積がある様子であったが、浸水のために調査不能である。数点ではあるが表土下80cm~100cmほどの黒色土・茶褐色土中から縄文時代中期・前期の遺物が出土している。検出調査でもこの土層中から縄文時代前期の遺物が収集されているが、遺構の確認はできなかった。なお土層図には図示されていないが、径70cmほどの転石が並び、その西側は急激に西側へ落ち込む地形が観察される。

S・N・DBは砂質土の複雑な堆積が見られ、総体的には南・西へ大きく傾斜する地形が観

察される。第3図に見られるようにS・Nと南へ行くに従って砂質土が厚く、水の影響を受けた鉄分を含む土層が観察される。表土下1m40cmまで砂層が堆積し、さらに砂質土・砂礫層があるようであったが、浸水が著しく掘り下げることが出来なかった。遺物は、Sグリットの上層黒色砂質土中に縄文時代の小破片が出土しただけで、他の層からは出土していない。検出調査は、FからR列までの範囲を重機で排土し検出調査をしたが、N列東側で縄文時代前期・早期の遺物が確認されただけで、他の遺物・遺構等は検出されていない。

F地区というのは、大村バス停車場に近いあたりの台地西先端部に位置するところである。広幅用地は4mほどであるので、西側に寄ってA・C・F・G・I・O・P・Rの8グリットを調査している。この付近は黒色土の堆積が浅いところは30cm、深いところは120cmであったが、砂質土等の堆積ではなく、黄褐色土の地山に続くようで、ところによっては黒色土下層に大きな転石があった。出土した遺物は近世陶器が主であり、黒色土の覆土を持つピット・土壤・小溝址が検出されているが、近世頃のものかと思われる。

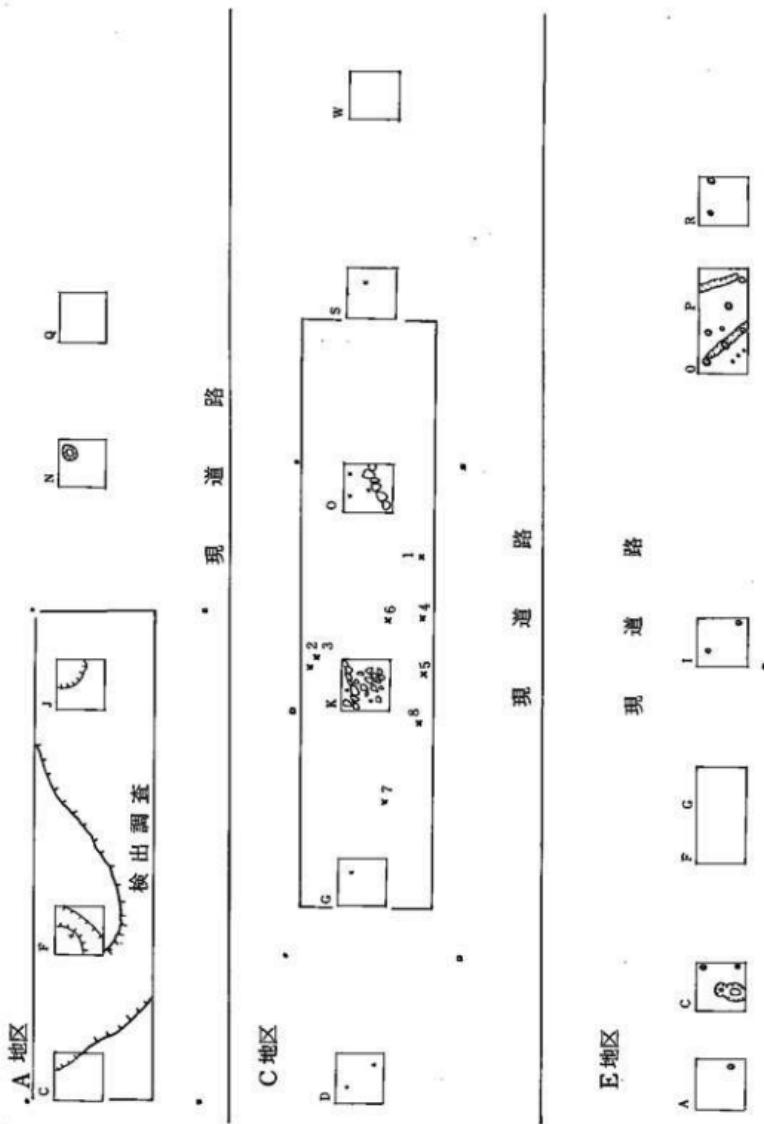
第4図に出土遺物の主なものが図示されている。

出土遺物は、表採資料を含めて40点程であるが、集中的に出土したところは、A地区Fグリット、C地区Oグリット周辺である。A地区Fグリット出土の深鉢形土器は（第4図9～12）4分の1くらいで器形を知るまでに至っていない。文様・特長から横形文を持つ縄文時代中期中葉の土器かと思われる。表土下140cmのところで出土している。検出調査でこの周辺を細かく調査したが、このほかには土器・石器が出土することなく、全くの単独出土であった。遺構の所在もはっきりしていないが、溝状の地形があり、その縁に土器が出土したものと思われる。

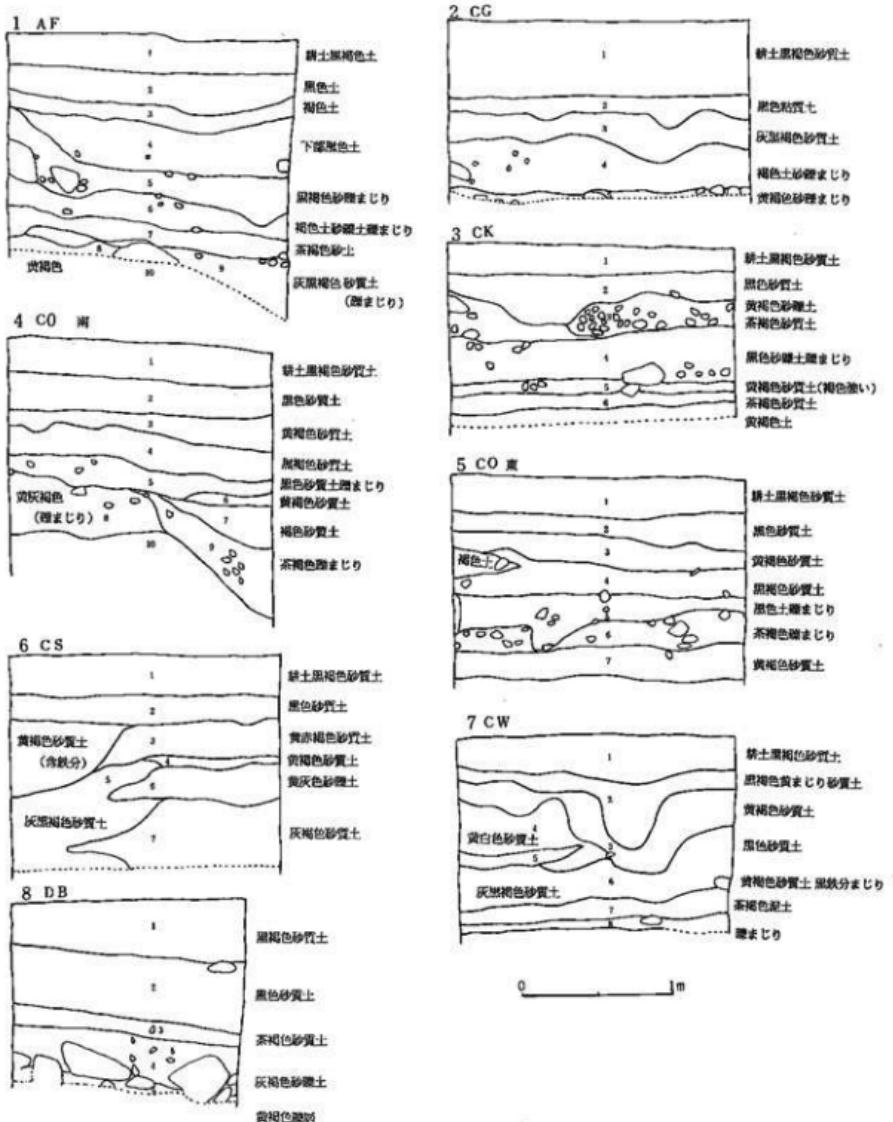
1～4はC地区グリット0の東側表土下70cmほどの茶褐色砂質土層から出土した土器片で、8点ほどが集中的に出土している。1個体の土器片であるが、出土範囲は1mほどあるから何らかの事情で散乱したものと思われる。その周辺を細かく調査したが、他の遺物は発見されていない。土器は1.2cmほどの厚いもので、表面には格子状の沈線が交差し、裏面はヘラ状工具により削りがみられる。繊維を含む古いタイプのもので、早期末から前期のものと思われる。

5～7は、グリットOとその周辺から出土した縄文時代前期黒浜式系の土器片で、8は調査地西側の台地先端部から表採したものである。13・14はC地区の表採資料、15は台地西側の表採資料、16は近世陶器である。

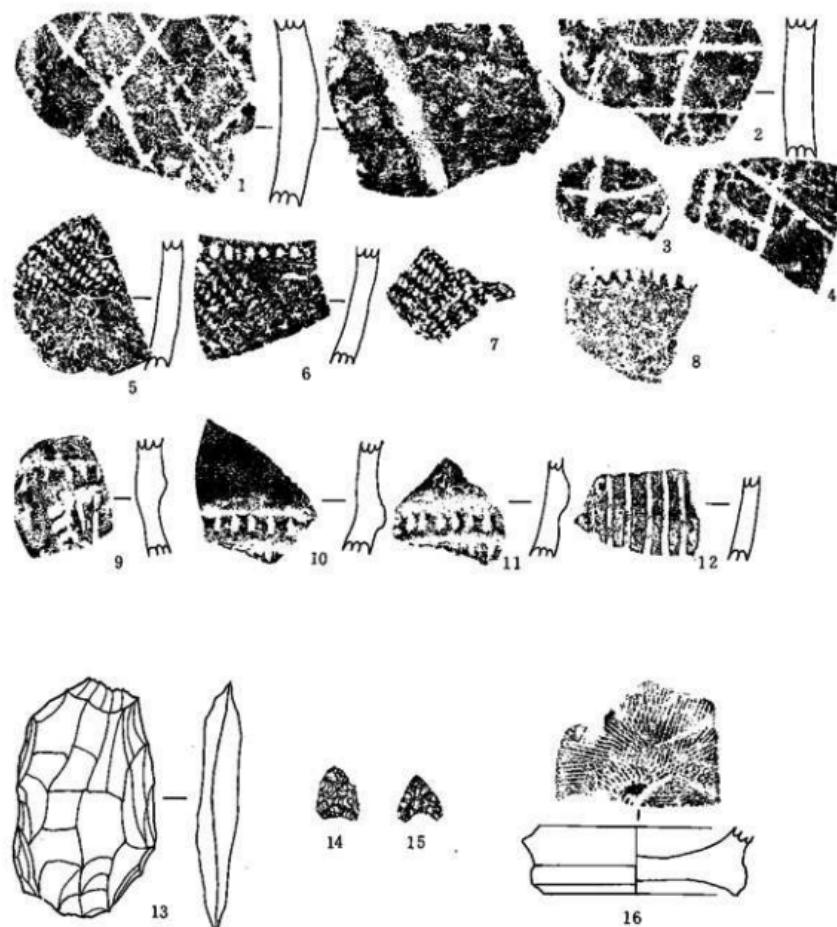
何れにしても、出土した遺物は少なかったが、そのなかで見るかぎりでは、縄文時代早期から前期・中期中葉に限られているところに特長がある。C地区上方では縄文時代前期的な土器片が表面採集することができ、西側下方の台地先端部では、前期土器片・石器が表採され、構造改善事業中に多くの土器片・黒曜石が出土したと伝えられていることから、今回の調査地は遺跡の中に含まれながら、空白地帯であったと思われる。



第2図 調査地域の配置



第3図 調査グリット土層図



第4図 大村遺跡出土遺物



1. 西側より大村北部を望む



2. 西側より大村南部を望む

写図2

調査前の大村遺跡



1. C地区



2. F地区

写図3 C地区のグリット掘り



写図4 A・F地区のグリット掘り



1. A地区



2. E地区

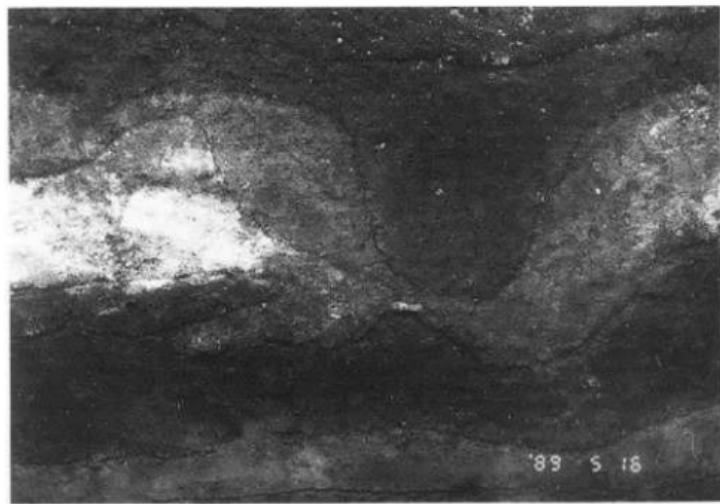
写図5 A地区の検出作業



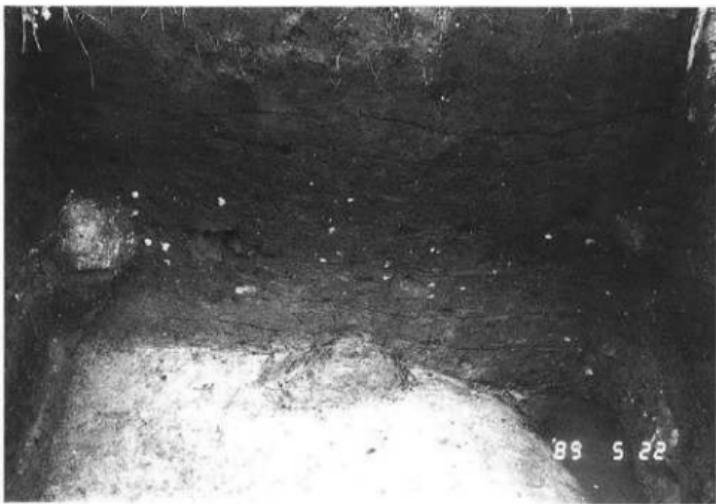
写図6 C地区の検出作業



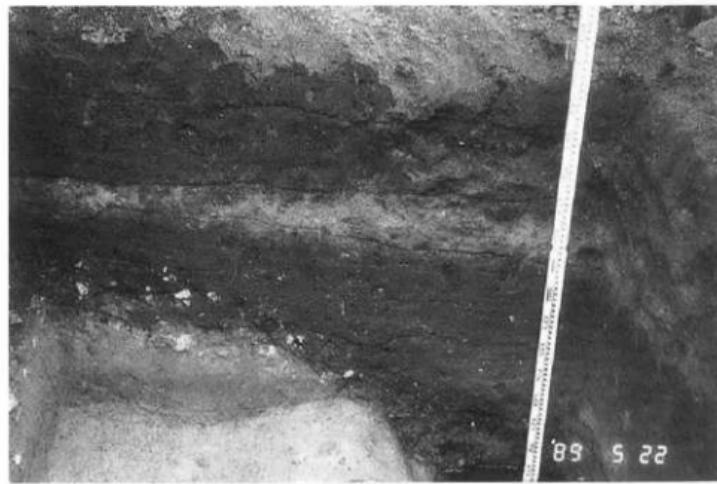
写図7 C地区Wグリットの土層



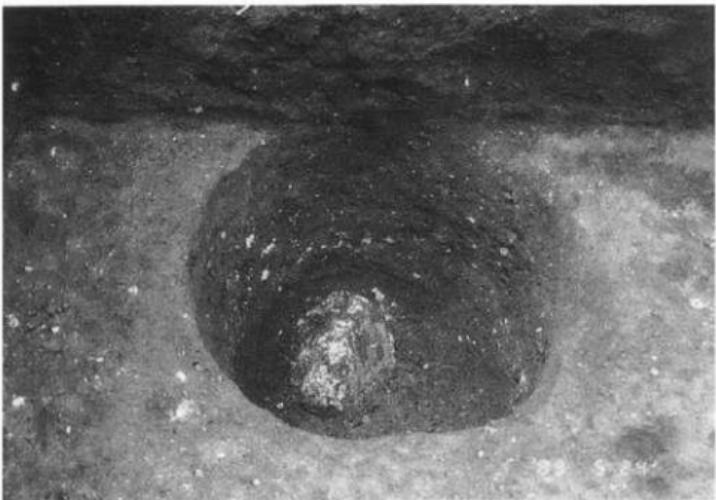
写図8 A地区Fグリット土器出土状況



写図9 C地区〇グリットの土層



写図 10
A 地区土壤
1・2



新野大村遺跡

国道151号線改良工事に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

1992. 3

長野県飯田建設事務所
長野県下伊那郡阿南町教育委員会

印 刷 新 葉 社

